

2021年3月17日(水)

祈禱会の皆様、

おはようございます！（夜の祈禱会の皆様、こんばんは！）祈禱会の時間です！

【テーマ】「嘆きと悔い、そして希望」③苦しみの果てに

【聖書のみ言葉】哀歌4章を読みましょう。

【解説】

哀歌4章も第1、2、3章と同じようにアクロスティックで構成されています。エルサレムの崩壊を生き延びた目撃者は、崩壊の出来事を淡々と記録しています。

エルサレムの異なる人々の結末(1-20)： 神殿にあった美しい黄金の石や壺は投げ捨てられて、色あせている。人々は互いに無慈悲となり、それぞれ生き延びることで一杯になっている。乳飲み子や幼子にパンを与える者もない。富んでいた者たちも道端でやせ細っている。なぜか？民の罪があのだもソドムの罪よりも大きかったからだ(6)。聖別された者たちも今やその顔を認識できないほど汚くなり、その皮膚も干からびている。農夫よりも戦士のほうが少なくとも飢え死にしないで幸せだ。憐れみ深い女たちも自分の子を煮て、飢えをしのいでいる。主は憤り、エルサレムを崩壊された(11)。このようなことがエルサレムに起こるとは誰も思ってもいなかった。これは預言者や祭司たちが正しい人たちの血を流した罪の故である。主ご自身が民を散らされ、もはや目を留めない(16)。そして、誰も民を助けてくれない。

私たちはもう終わった！私たちが狙う者は速く、私たちに追い迫り、私たちを待ち伏せした。私たちは主に選ばれたはずなのに、捕虜とされてしまった。

エドムの呪いとエルサレムの祝福(21-22)： エドムよ、あなたが裁かれる日が必ず来る。エルサレムよ、あなたの罪は裁かれた。主はもうあなたを捕囚とされない。ただ、主は罪を裁かれる方であることを覚えよ。

【適用】

苦しみの中では終わりが無いように見えます。主が裁かれたと感じる時はなおさらでしょう。主の裁きは苦しく、痛いものです。しかし、それでも主に訴え叫び続けるなら、目撃者のように、まだ完全な救いではなくとも、苦しみの果てに終わりがあることを知るので。それが一筋の希望の光となり、その後の回復へとつながります。主に苦しみの果てまで叫び続けましょう。主イエスにあって恵みの神ご自身が、私たちがしばらくの苦しみした後で、回復させ、強くし、不動のものとして下さるでしょう(1ペテロ5:10)。

【祈り】 下記の祈りの課題を覚えて祈りましょう(主に、週報から)。その他にも個人的な祈りの課題があれば、祈りましょう。 * 皆さんに共に祈ってほしいということが何かありましたら、牧師までご一報ください。

ありがとうございました！

また来週、配信致します。

百合丘キリスト教会

川井信雄

(「祈禱会の時間です！」の受信をご希望の教会員の方には転送して下さい。その他、通常祈禱会に来て下さっている方にもどうぞ。その際、次回直接メールできるように、私にもCCして頂ければ感謝です。)